

令和7年度 学校評価結果と課題

豊橋工科高等学校（定時制）

自己評価結果と課題

重点目標	①基礎学力の向上を図り、基礎から応用につながる指導を強化する。②社会人として通用する人間教育に全力である。③コミュニケーション能力の向上につながる方策を実践する。		
項目（担当）	重点目標	具体的な方策	評価結果と課題
生徒指導 （生徒指導部）	<ul style="list-style-type: none"> ・社会人となるための基礎的モラルやマナーの体得 ・礼儀をつけた基本的生活習慣の確立 ・規則遵守と自ら考え、行動できる生徒の育成 ・交通安全意識の涵養 ・いじめのない学校生活の構築 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の取り扱いに関するマナーの徹底をしていく。 ・規則を理解させ、授業・ST等の時間厳守の徹底、頭髪服装指導の実施及び集会等での礼法指導を徹底する。 ・正しい行動選択をできるように予防的支援を行う ・交通安全講話を実施し、安全意識の高揚をはかる ・他者との関わり方について、集会等を活用し考える機会を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の適切な使用について一定の理解は見られるものの、場面に応じた判断力には課題が残る。次年度以降も情報モラルに関する指導を継続し、正しい使い方やTPOに応じた活用について、より一層の意識定着を図る必要がある。 ・遅刻延べ件数は過去5年間ほぼ横ばいで推移している。遅刻が常態化している生徒（年間20回以上）に対しては延べ5件の個別指導を実施した。今後も時間を守ることの重要性について、粘り強い継続指導が求められる。学校生活支援活動に該当する困難課題は計12件発生した。そのうち4件は刑事罰に発展する可能性のある事案であり、5件は進路変更に至った。安心・安全な学校生活の実現に向け、ルールやマナーの遵守について、より一層の意識啓発が必要である。困難課題への対応を通して、ルール・マナーに対する生徒の理解不足が課題として明らかになった。今後は、生徒自身が考え行動する力を育てる指導を重視し、問題の未然防止につなげていきたい。
学習指導 （教務部）	<ul style="list-style-type: none"> ・授業欠課時間数の減少 ・学習意欲を高める ・外国人生徒が日本社会で活躍できる能力の育成（日本語能力試験の合格） 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠課時間数の多い生徒に適宜指導を行う。 ・業前業後の学習会、学習指導期間の活用により、個別指導の充実を図る。 ・日本語の理解が低い外国籍生徒に対する支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欠課時間数が増加した生徒に対して、保護者・担任・教務部・管理職と連携し段階的な指導を行った。これを境に出席状況が好転した生徒も多かった。今後は、段階的な指導を継続させるとともに、欠課時数の増加を序盤で抑えられるように取り組んでいきたい。 ・追考査に向けた補習や、学年末考査に向けて単位修得が危ぶまれる生徒を対象に行なった特別補習では、多くの生徒が前向きに取り組めた。今後は、成績不振者数を減らすために、考査前の学習指導期間をより充実させていきたい。 ・日本語を苦手とする外国人生徒たちは、業前に実施している学習会に積極的に参加できた。1学期に成績不振科目を多く抱える生徒もいたが、学習会での取り組みの成果により、2学期以降は成績不振科目の数も少なくなった。
就労及び進路指導 （進路指導部）	<ul style="list-style-type: none"> ・自立意識と職業観の育成 ・企業から必要とされる人材となるための基本的素養を高める ・生徒の社会的自立を支援し、地域社会の一員としての自覚を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア教育に関する講話を実施し、社会人としての心構えを養う。 ・進路希望調査を実施し、個々の進路に対する意識の向上を図る。 ・企業訪問を実施する。 ・進学支援を実施する。 ・地域の支援施設と連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・企業見学や企業説明会等を実施することで、生徒が働くことの意義や社会人としての心構えについて考える機会を設けることができ、自立意識や職業観の育成につながった。 ・進路希望調査や個人面談を通して、生徒一人ひとりの希望や特性を把握し、個に応じた進路指導を行うことができた。 ・企業訪問や各地区の意見交換会に参加することで、本校の教育方針への理解を深めるとともに、求人確保や進路情報の収集につなげることができた。

保健指導 (保健部)	<ul style="list-style-type: none"> ・特性を持つ生徒たちが集団の中で適応できるようにする ・適切な生活習慣の定着 ・感染症予防の知識を深め、対策を実行できるようにする ・喫食率の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に「教育相談委員会」を開催し、生徒情報の共有と具体的な対策を練る。 ・保健の授業、保健日よりや全校集会などの場を活用し、生活習慣の見直しを喚起する。 ・引き続き手洗い、換気、手指消毒の継続を促す。 ・保健講話、献立の掲示、日々の声掛けを通して給食や食に関する関心を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談委員会を定期的に開催したことで、生徒情報を全教員で共有することができた。そのため、対応を求められる生徒に対し全教員で対策を講じることができた。ただし、委員会が年5回であるため、早急に対応すべき事案が急遽発生した際に全教員に情報を随時共有できる対策を立てる必要がある。 ・生徒自身に生活習慣を見直させることが、全校集会や、養護教諭、SCが作成した保健だよりを通して実施できた。 ・感染症に対しての啓発や呼びかけをすることで生徒自身に換気を意識させることはできた。しかし、本年度は高熱といった体調不良にも関わらず病院に受診することなく登校する生徒もいたため感染症への理解度を高めることが来年度の課題である。 ・給食や食に関する意識を、献立を昇降口にイラストを添え毎回掲示することや給食室に啓発ポスターの掲示、栄養士による講話、教員による声掛けにより高めることができた。しかし、喫食率の向上には意識改革だけでなく、夏場の給食室の環境改善が課題であることも WBGT と食数の相関関係から把握できたため快適な食事環境を整えていくことが今後の課題である。
P T E A活動 (総務部)	<ul style="list-style-type: none"> ・PTEA 間の連携を深める ・学校教育活動に対する理解を深める ・防災に対する意識の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTEA 総会や役員・委員会を実施し連携を深める。 ・保護者懇談会を実施する。 ・激甚災害に向け、防災訓練を充実させ、情報を発信する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・P T E A総会や役員会・委員会を通して生徒の現状の様子を発信し、情報共有することができた。 ・保護者と直接話し合う機会により、学校の過ごし方や学習の様子を共有することができた。また、授業見学会を実施し、実際に授業の様子を保護者に見せることができた。 ・防災訓練では、夜間中学校と連携を取りながら、生徒を避難させることができた。また、講話では最新情報を取り入れ、災害用伝言ダイヤルの使い方について触れた。
専門教育 (機械科)	<ul style="list-style-type: none"> ・安全意識を高く持ち、実習を行えるようにする。 ・社会で通用する技術技能を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安全教育を実施し、安全作業への意識を徹底させる。 ・専門教科や実習を通じて機械の扱い方や知識を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作業開始前に当該授業の安全と対策について説明し、作業中も危険な場所や正しい操作手順を徹底して指導した結果、重大事故や怪我の発生も無く、安全に作業を実施することができた。 ・実習服や保護メガネなど、作業に必要な道具類を忘れる生徒が度々発生しているため、技術だけではなく、作業員として高い意識をもつように今後も指導を継続していく。
学校関係者評価を実施する主な評価項目		<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣の確立 ・進路指導の充実 	